

第5回 尼崎市都市計画審議会公園緑地分科会 会議録

1 日 時 : 令和5年7月18日(火) 14:00~17:00

■施策間連携

○尼崎市都市計画マスタープラン、尼崎市立地適正化計画の改定について

委員 防災協力農地に加えて、市民のみどりに対する PR につなげて市民農園の需要を上げたら農家も助かるので、市民農園についてもいれてもらいたい。

事務局 29 ページに市民農園などの整備活用としてについて記載している。

事務局 36 ページに防災協力農地の取組と推進について考え方を記載している。

委員 防災のことで、農地に限らず密集市街地で火事があったら逃げられない場所があると思う。例えば神戸市の防災計画で、道路に接しておらず建て替えができない場所で空き家になって除去をしないといけない。そのあとどう使うかというところで、公園のような場所にして農地のように使えるし色々な用途に使えるようにする。コミュニティガーデンのような使い方ならみどりの基本計画と関連するし、オープンスペースとしては都市計画的には暫定的に開けておくことで防災性を上げる。防災上問題のあるところで、みどりの基本計画で細かなネットワークをつくっていくことについて考えていかなければならない。

民有地緑化、尼崎市はみどりが少ないので開発した時に民間に緑化をしていただくことを重点的にしたらいい。43 号線以南の工業地域では 21 世紀の森構想もあるので何社も協力して維持されてきた。駅前にはぎわいにあわせて大規模な緑化をお願いするかもしれないし、新駅周辺やこれから住宅地開発されるところなどは宅地緑化しないといけない。重点的にそれらを考えることを記載すればみどりの基本計画でもネットワークの街路樹だけではなく小さな面としてそれらを位置づけることができるかもしれない。

事務局 1 点目の防災性の観点の話について、密集市街地の中でコミュニティガーデンみたいな話が出ると、農水省が駐車場を農地にする場合補助を出す取組としてあるので、農政部局と連携しながら農園に変えて防災空地という考え方も取組の方向性としてはある。2 点目の民有地の緑化について、駅前広場や幹線道路沿道、鉄道沿線など目を引くところについては仕切りを解除した沿道緑化、街角緑化を誘導しますという緑化の推進を記載している。新駅周辺については、まちづくりの考え方は地元の住民の意見を聞きながら大きな方向性を考えていくことを記載しており、今の時点で住宅の緑化率を変えるとかの議論はこれから検討していく。

委員 アピールの仕方が上手で、あまがさキットや「ひと咲き、まち咲き、あまがさき」とかいい感じのキャッチフレーズはどういう仕掛けや経緯があったのか。みどりの基本計画でもわかりやすい示し方が議論になったりするので教えていただけたら。

事務局 「ひと咲き、まち咲き、あまがさき」やあまがさキットは、総合計画策定を終えてから同じように審議会を開いて発信業務としてコンサルに内容を見てもらい、見せ

方を工夫するという事でデザインを落とししてもらっている。業務としては別で市の直営でやっているわけではない。コンサルはプレゼンで選び委託業者もコンペにかけて選んだ。

○（仮称）尼崎市総合交通計画の策定について

清覧のみ

○尼崎市環境基本計画の改定及び尼崎市生物多様性地域戦略の策定について

委員 市や県の遊休地や花まち委員会の富松圃場など空き地を利用して地域の苗を育てることはできないか。

事務局 地域性苗木については、尼崎の森中央緑地で生産している苗が余っている場合には補植などに利用できれば、尼崎らしさというところにつながるのではないかと思う。猪名川自然林の再生実験でその地域性の苗を使うなど一部試行的にやっている。

委員 苗そのものを育てるのは難しい。遊休地活用して苗を育て上げて移植するという方法があると思うが、例えば植木販売しているところはちゃんとしたところが木を育てているので、そういう形でその苗を育てていくと、地域産の植木が増えていくのではないかと思う。そういう苗があってもいい。21世紀の森における苗を育てたらいいのではないかと思っている。公園の中だと管理が大変。そういうことも考慮しながらできないか。

尼崎市の河川敷は特に外来種が多い。以前、国交省を通じて猪名川藻川の外来種の駆除をして元々河川敷にあった野草を植えたことが何年間かあった。国交省の上が変わるとなくなってしまった。そういうことが起こらないように市の方針でやったら最後までやり遂げることが大事である。市や県の本気度が、どこまでやるかが大切である。そうしないと駆除できない。

事務局 地域性の苗木についてはひとまずあるものを使用することを考えており、遺伝子レベルで生物多様性を確保しているとなると、種の採取からきちっとしないといけなくシステムの構築がかなり難しい。既に市内にノウハウを持っている施設があるのでなるべくそれを活かすようにやっていけたらと考えている。

河川敷などの水辺に生える外来種が特に多いというのは調査結果としても把握している。また、河川の管理者である国や県は自然保護の計画や方針があるので、これらを踏まえながら防除に関するイベントなどを連携しながらやっていけたらと思っている。

委員 21世紀の森の植え始めたころ、地域産の種から育てた園芸店みたいなところの苗を実験的に植えたということがある。地域産の苗を育てているところがあるのでそういうところから探し出せばいいのではないか。

事務局 苗木を育てている会社にこのような苗を育ててほしいと業務をお願いすることで、地域性の苗を確保している事例があることは把握しているが、先ほども申し上げた通りシステムの構築など色々検討しないといけないこともあるので、現時点では尼

崎の森中央緑地で生産されている地域性苗木の活用を基本に、生物多様性に配慮した緑地を大切に増やしていかないといけないことは方向性として生物多様性地域戦略に書いて検討していきたいと思っている。

委員 緑化公園協会普及啓発の団体として、生物多様性に関わるような普及啓発の取組で川の生きもの探しやセミ羽化観察会などをしており、計画が取り組む段階になったら連携していけたらと思う。

委員 環境部局は、生物多様性の学校向け冊子の作成など学校向けについては強い気がするが、一般向けに普及する部隊や事業がないので、緑化公園協会と連携しながらやると一気に一般市民への普及が広がる気がする。

委員 市民啓発は非常に重要だが、頑張っているところを表彰するなどそういう施策はあるのか。

事務局 環境の活動をしている人を表彰する取組は、市ではやっていないが県では生物多様性の保全・再生に関する取組について選定し、支援やPRするといった取組を行っており、そういった枠組みがあるならば、それを活用していければと考えおり、そこまでは戦略に書き込んでいない。

委員 県での取組があるかもしれないが、都市美分科会のほうでまちかどチャームング賞という都市景観の形成を頑張っている団体に対して表彰する仕組みがある。その中で、生物多様性の保全を頑張っている活動をぜひ応援すべきだということで投票したことがある。そういう団体を生物多様性の面からもきちんと応援できるような方法があればいいと思う。

事務局 一度検討してみたいと思う。

委員 北部の水路、農地の水路もみどりの定義の中に含まれるので、どう位置付けるかみどりの基本計画でも定まっていない気がする。環境、生物多様性の中では水路は貴重だと位置付けている。農政の方で国から交付金がある。農地をちゃんと維持するという交付金もあるが、水路で外来種駆除や生物多様性用や地域で作ってやることに対して、国から県市を通じて交付するというものがある。農政との連携はどのようなのか。生物多様性でここをやりますというのがあったら、農政の方で金をとってきていろんなシステムが考えられる。農政との施策間連携はどのようなのか。

事務局 水路は農業をするための施設であるが、河港課が管理している場所もある。農政課も農地水路が生物の住みかになっていることは認識していただいているほか、河港課としても市民から希少な生き物がいると連絡があったときは情報共有して水路清掃するときは注意してほしいなど協力したりしている。水路はかなりの延長があるので全部を調べたわけではないが、わかる範囲では河港課と維持管理に配慮してほしいという話はしている。

委員 北部でホタルを飛ばしましょうという運動がある。農家は田植えの前になると藻掻きという水路の草を取って水の流れをよくして水路を確保というのをやっていたが、ホタルを飛ばすことになったら藻掻きをしたらホタルの幼虫が住めなくなるので、また水利の権利の問題もありどのへんで折り合うかが難しかった。ただ今は、

悲しいことだが農地が少なくなったので、昔の水路で十分に水路がとれるようになったので、藻掻きをしなくなり水生動物も残りつつあるかなあと思う。人間に都合のいいものを残していこう、メダカとかは人は好きだが、ケムシやアリは駆除しようという方向があるから、その辺の折り合いが難しいと思う。

■議事

○素案の審議

- 委員 リノベーションしていく公園で、上坂部西公園のみ縮小して建替えとあるが、どういった意図でリノベーションされるのか。
- 事務局 箱もの施設全体を減らそうという市のファシマネ計画があり、公共施設の床面積を30年で30%削減という目標がある。上坂部西公園の緑の相談所については建物の老朽化ということもあり、計画対象に上がっている。公園部局としては縮小だけではなく、公園の利便性を高めた新たな施設に更新したいという思いはあるが、現段階では決まっていない。
- 委員 緑の相談所はみどりの活動の大きな拠点として見られているので、このファシマネ計画で後ろ向きな感じにみられるのはいいのかと思った。
- 事務局 みどりの相談所の機能の縮小は考えていない。ファシマネ計画は床面積縮小の計画なので、機能は維持することについては本計画に書いてもいいのかもしれない。
- 委員 大規模公園リノベーションの7公園に武庫地区がない。小規模公園のリノベーションは6地区各1か所ずつやっていく。都市マスでは阪急沿線地域など沿線単位でやっていくけれども、みどりの基本計画では小学校単位も含めたコミュニティ単位で考えていくということでもいいか。
- 事務局 そうであれば、みどりのネットワーク図に6地区の線をおとしこむことで、その地区にどんなみどりが多くてどんなみどりが少ないかがわかる。計画の位置づけのところ、「6地区のコミュニティを単位としてみどりは考えていきます。」と明記したほうがいい。ネットワーク図など重要なところではこの地区はこう変わるのだということがわかるようにしたほうがいい。
- 委員 小さくて身近な公園のルールづくりでは地域の人の意見をいただきながら進めていくところが比重として大きいので、6地区の地域課と連携してやらないといけないと思っている。
- 事務局 大規模公園に武庫地区がないということだが、武庫地区の大規模公園として西武庫公園があるが現状行政計画上とれていない。
- 委員 防災協力農地とは具体的にどういうものなのか。
- 事務局 登録制の農地で、災害の際に農地を地域に開放して使用してもいいと了承いただけた農地について、防災協力農地として登録している。
- 委員 災害が起きたときに簡易テントを立てたり雨つゆがしのげる物を置いたり、防災協力農地に登録していなくても農家さんは場所を貸してくれると思うが、防災の意識を高めるために防災協力農地がある。

- 事務局 補足で市の農政部局の計画として、現在農地が市内に 80ha あるが、その 1 割の 8ha を防災協力農地として設けようと、令和 4 年～6 年の 3 か年で取り組んでいる。
- 委員 目標設定している中で 5 年か 10 年後の目標値に参加人数など上げているが、これは毎年実績を取っていくのか、それとも 5 年目 10 年目に取るのか。
- 事務局 目標値については毎年取っていく。
- 委員 毎年の参加人数だと 5 年後に何が起こるかわからない。コロナなどがあるとイベントができないので、累計にしたほうがいいのではないかな。
- 事務局 イメージとしては毎年数字を追いかけながらどうしたらいいのかわかるのか PDCA を回しながらというイメージで考えているが、累計についても検討する。
- 委員 5 年後の中間地点で計画の見直しを行うので、目標設定についても再検討する。
- 委員 保全配慮地区について、趣旨として①風致景観の保全、②生物多様性の保全、③自然とのふれあいの場の提供とあるが、尼崎市の場合、河川敷の緑地等はここにしておくべきではないか。社寺林等にあるかもしれないが指定の検討をしていただければと思う。
- 事務局 尼崎市の場合、西端の武庫川河川敷緑地は都市公園なので、都市公園の網がかかり緑地の保全ができています。しかし、都市公園になっていない河川敷緑地もあるので、その場合対象の候補になりえる。
- 委員 ほとんどの河川敷は都市公園なのか。
- 事務局 武庫川河川敷については国道 171 号線から南端までが都市公園となっている。猪名川藻川については一部分しか都市公園になっていないので、それ以外の地区については保全配慮地区指定も視野に入れていいと考えている。上坂部西公園内を流れている昆陽川などは都市公園にかかっていないので、そういうところは指定の候補にしたいと思う。
- 委員 資料 3 の 9 ページに、保全配慮地区の指定を検討する場所に、①学校園、②事業者敷地、③社寺林、農地等とあるが、ここに④河川等水辺の項目を入れたらどうか。
- 事務局 尼崎市南部には運河もあるので、④河川、運河等で追加する。
- 委員 猪名川藻川は国交省の管轄である。そちらと話し合いすれば緑地を市としてもできるのではないかな。
- 事務局 都市公園にするにはアクセス面等の問題があり難しいので、それは後々の課題として、今回の計画の中の保全配慮地区には入れたいと思う。
- 委員 尼崎市の二酸化炭素ゼロについて、緑化だけでは無理だがそれに向かってやればある程度ゼロに近づく。この緑化の他の要因も働いていった場合に、その辺は可能なのかな。
- 事務局 緑化面積と CO2 吸収量の関係だが、環境省のマニュアルによると大まかには都市公園 1ha あたり約 9tCO2 を吸収するという計算方法がある。生長過程で CO2 を吸収するので、公園の整備から長く経っていないなどの条件もあるが、それらを見積もった場合、尼崎市には都市公園は約 200ha あるので最大で約 1800 t 吸収すると見積もれるが、市から出ている CO2 が 250 万 t ぐらいあるので吸収量としては、都市公園以

外の緑地種々含めても 1%もいかにないくらいしか CO2 を吸収していないのではないかと思う。

そのため、地球温暖化対策の計画で緑地はヒートアイランド対策など適応策には効果があると思っているが、CO2 を吸収する施策としては位置づけではない。

委員 公園をどう育成管理していくのが大事。適正化計画を作るとはっきりすると思うが、色々な木をいっぱい植えるのではなく本数は少なくなっても大きく育て樹冠を大きくして緑陰を大きくするという方法がある。しかし、本数を減らしても大きく育てると管理費が上がるので方針を立てづらい。CO2 を今よりかは蓄積だけでなく吸収する余地もあるが、プラマイゼロに持っていくことはみどりではできない。現在は協会で全部は剪定していないようだが、外注の仕方も悪く、街路樹の適正化と書かれているけれども、育成管理の適正化、管理の仕方も適正化していかないといけない。1年に1回の発注だと、その1回は切るしか選択肢がない。3~5年育てるという選択肢ができない。10年かけて樹形を整えていくということができなくて、それは発注の仕方の問題である。

神戸市では東灘区・灘区と、中央区の一部で包括委託を3年契約でやっている。そうすると、受注を受けた事業者が育成しようという計画を立てる。ここは今年切らない、ここは樹形を整えるなど工夫ができる。これは街路樹の適正化ではなくて、街路樹の管理方法の適正化である。18 ページの図の中に技術的要因や経済的要因、制度的要因とか課題も入れていただいたが、どうするのかまだ記載がない気がする。適正化計画を策定しようとしていると思うがするということも含めて書いておくと予算を取る際に「書いているでしょ」といえる。

委員 ネットワーク図をどうしたらよいか。ある程度アイデアは出しきったほうがいい。どんなエリアがどう変わっていくかがわかるようにしないといけない。6地区の区域を書いたほうがいいと思う。赤丸が21世紀の森エリアだが、中央緑地の付近だけで生物多様性のことでここだけ丸がついているが、実際は43号線より南全部が森エリア、つまり生物多様性で広大な工業地域を環境優先型のまちにしていこうとか、生物多様性に配慮した緑化を進めていこうとかわかる取り組みを記載していけばよい。住宅地はこう変わっていくし小さい緑の公園も変わっていきそうなことがわかったり、工業地域は私有地緑化で大きく面で変わっていく、真ん中のあたりは都市マスと連携しながら JR や阪神尼崎の駅前とか重点的なところで都市開発みたいなことが起こるなど、まだポリシーが定まっていないような気がする。あまり強い丸はつけられないなというところである。

点があって街路樹があつてというだけでなく、ポリシー、どんな街にかわっていくかというネットワーク図に更新できるのではないかと思う。

委員 防災のことを考えると木の種類も考えながら植えてもらわないと危険性も出てくる。

委員 狭い公園だからと低い木を植えると暗くて中が見えなくてだめで、狭い公園こそ本

数少なくても大きな木を植えるなどの方針が必要だったりする。子育てや新しい世帯を向かえる地域こそリノベーションとかゆっくりと植え替えていこうとかしないといけない。武庫地区はこうしますとか小規模公園はちゃんとやっていますとか、ポリシーがネットワーク図にないといけない。

委員 ネットワーク図下の表のところでは自然環境の公園の表示があるが、保全が行われているとか生物が豊かであり環境学習を行う拠点という位置づけの公園というのがすごく大事な気がして、自然環境と環境学習をセットにしてもいいのではないかとと思う。説明を加えていただくといい。

委員 緑陰をちゃんと作っていくことが公園では重要。尼崎市では緑陰が多いような気がするが、小さい公園は緑陰がないことは多くある。今は家族で来られますし、この暑さなので安全安心で家族が半日入れる公園のセットが変わってきている気がする。虫がワンワン飛んでいるのではなく、お母さんは休みながら子どもたちが遊びまわるといった環境のセッティングが必要な気がする。大きな施策ではないので予算要求で予算を取るわけではないのかもしれないけど、日々の勉強とか非常に関連がある。

委員 みどりのネットワーク図、ポリシーとか将来像までいかないが、円に対して文字が目立っていない。文字はこれからこうします。頑張っていきますということなのか。

事務局 どちらかというと、現状を書いています。

委員 引き出し線のところがこれからやることの説明になっている。このみどりとこのみどりが一緒にあるからこうなる。例えば元浜緑地の青いエリアは河川運河の一体的な利活用促進エリアになっているが、元浜緑地は運河沿いであって色々な活動の場となっている。ここは緑地と河川と運河が一体となったという説明にしたほうがいいと思う。そうすると環境学習全般がみどりのところでも水辺でもされているような拠点として位置づけてちょっとできないことができるようになる。ここは水路と武庫川河川敷と一体となって、環境とウェルビーイング、マラソン大会とかも一緒にやったりして、何かと何かがつながってエリアではこんな地区になってくるといった説明があるといい。園田は農地と農業公園とか。真ん中あたりが難しい。開発はこちらではコントロールできないのでこんなみどりにしますとか合わせて書きにくい。

委員 小田南公園や尼崎駅前ゾーン何かあってもいいと思う。上坂部西公園や記念公園のエリアについても同様。

委員 21世紀の森エリアは43号線以南に広げて、何かビジョンを、こういう風にすると尼崎21世紀の森らしいことを書いてほしい。

委員 ネットワーク図の「農地が身近にある良好な住環境の保全」と「都市における貴重な農地の保全」の違いがわからない。住環境の方は景観をよくしたいとか市民が利用することを重視する、もうひとつの農地の方は生産機能を重視するということなのか。

- 事務局 武庫川新駅のエリアだけ「農地が身近にある良好な住環境の保全」とした。新駅が開発されて新しい方が住まれたり新しい開発が起きたりしたとしても、もともとある農地の機能を維持していく住環境に誘導していくということもあり、ここだけ表現を変えた。
- 委員 「都市における貴重な農地の保全」のほうは住宅地がないのか。やることはどちらも農地を保全することなのか。住環境の方は住環境と調和するイメージなのか。
- 委員 「良好な住環境の創出」だから住宅地の開発緑化をどうするかなど、地元との調整があるから具体的には書けないけれどもそういうことを目指していく。その資源として農地がある地域ですよという意味なのか。
- 事務局 農地を保全するという意味では一緒だが、そこに加えて住環境が新しく出てくるといことで、農地が身近にある住環境の創出と書いているがわかりにくいかもしれない。
- 委員 都市における住宅地や市街地との調和の話かなと思った。そうではなくて農地の保全に重きを置くならそれでいいのかなと思った。
- 事務局 新駅の検討箇所で農地を保全するというのは一緒だが、駅ができたときに色々な開発が起きる可能性がある。農地は特に保全しないといけない。今続けられている方は続けられることも必要ですし、アンケートでも「今ある自然環境は維持してほしい」という意見もいただいた。そういったところも踏まえて書かないといけない。「都市における貴重な農地の保全」だけではなく、住環境も意識しますし農地も保全するというところでエリア的に書き分けている。
- 委員 資料 4P28, コラム「みどりを通じた都市課題の検討」、タイトルが「都市課題の検討」ではなくて「都市課題の解決」ではないかということと、本文を見ると何の都市課題が解決されたのか書いていなくて、土地活用ということだけなのか社会的貢献とか健康維持とかいろいろな都市課題を解決しようとしているのか例示したほうがいいのかと思う。土地活用と地産地消だけでいいのか。土地活用にフォーカスしても人工減少とか空き地とか課題があまりよくわからないかなと思う。尼崎市でそれが本当に問題になっているのか。あまり空き地がないイメージだが。
- 委員 行政がポリシーを決めて、自分たちが事業をやってそれを実行しやすい体制とかがつって来た。一人で全部していたものから、真ん中の事業をみんなでやるものに変える。市民協働でお金を使う使わない含めみんなでやる。基本計画でポリシーを決めてみんなで頑張りましょう。みんなでやるときにやりやすくするためのサポートをしましょうということを書いたほうがいい。課題や方向性よりもポリシーを書いたらいいと思う。詳しくは体制づくりのところで書いたらいい。
- 事務局 これから協働の比重が大きくなっていくので、職員の資質も変わっていかないといけないので、そういうこと視点で書き直す。協働を進めていく際こういう視点を持って市役所の人材育成をしていきますということを記載する。
- 委員 一般的にはサポートが大事ということを書くが、このみどりの基本計画では、各課

とつなげて公園に関する支援を考えていくとこれからの各課へのお願いがしやすくなるように、支所がなんでそんなことしないといけないのかといわれないように、後々仕事がしやすいような体制づくりを書いたほうがいい。

以 上